

第18回草津市総合計画策定委員会概要	
日 時	平成22年3月10日(水) 9時00分～11時00分
会 場	庁議室
出席者	橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、加藤委員、田内委員、西村委員、善利委員、中村好委員、片岡委員、岸本委員、上寺委員、平井委員、田村委員、林田委員、勇委員、山本委員、北川委員、森委員、中村良委員

1. 開会

2. 議事

基本計画(案)のパブリック・コメントの実施結果について

事務局から説明

《意見等》

- ・地域福祉計画を策定した時に、各市民センターでコーディネーターを配置することは、行政だけでできるものではない、地域と協力してやっていく必要があると提言を受けた。ただ、誰がどのようにやっていくのかまでは決まっていない。
 - ・この資料にある担当課の意見では、社会福祉協議会と記載されているが、担当での調整はできているのか。まず、どのようにやっていくかを決める必要があるのではないか。
 - ・「地域学習社会」という言葉は、一般に使われているものなのか、市が作ったものなのか確認がしたい。
 - ・地域協働合校でもこの言葉は使っている。
 - ・「地域学習社会」とは何かを定義する必要がある、注釈をつけるべきなのか。
 - ・3ページに「新しい段階の市民自治づくり」の説明がされているが、出ている意見内容を考えると、ここで言う市民自治の説明がされていないように感じる。丁寧に説明を行うべきではないか。市民自治の定義を記載する必要がある。
 - ・この成果指標は、どのように捉えればよいのか。
- 実績値として捉えている。
- ・アウトカム指標も必要ではないのか。この指標の設定内容では、何が良くなって何が悪かったのかを分析できない。指標のレベルもばらつきがあり、統一した設定をするべきではないか。
- この成果指標は、あくまで市民会議で設定した目指すべき状態像を端的に表すことを考えており、事務事業評価については、施策や主要事業で、達成状況や事業評価を行っていく予定である。
- ・目標値の設定が1%の増になっている指標があるが、意識調査の結果次第では、すぐに超えたり下回ったり左右されやすいことが想定される。もう少し、目標値を高くしても良いのではないか。また、他の指標を使うことも必要ではないか。
 - ・成果指標の設定について、その根拠を説明することが必要ではないか。

— 上 —